

龍馬伝を活かした商品づくり

2010年大河ドラマ「龍馬伝」の放送開始に伴い、県内各地で龍馬のキャラクター付き商品や龍馬の名が付された商品が数多く見受けられ、龍馬人気もあり販売に貢献している。こうした商品やビジネスの一部を紹介する。

1. 食品への活用

(1) 海援隊カステラ

長崎銘産のカステラでは、当時のレシピを忠実に再現した『海援隊カステラ』を文明堂総本店が「龍馬伝」に合わせ開発、発売した。

龍馬は新婚旅行にカステラを持参し、手でちぎって食べたとも言われており、『海援隊カステラ』というのは京都国立博物館所蔵の「雄魂姓名録」という、いわゆる海援隊雑記帳に残されていたカステラ製法のレシピを忠実に守ることを基本として、長年にわたるカステラ作りの技術を生かし、試行錯誤を重ねながら作り上げたもの。現在のカステラと比べ、水飴が配合されていないため、しっとり感はやや少ないが、卵の香りと砂糖の甘さが素朴な味わいを引き立たせている。

(2) 龍馬が愛した珈琲

長崎では、龍馬がたびたび訪れていた幕末の時代には、出島のオランダ人を中心にコーヒーが飲まれていた。龍馬は、貿易商グラバーや出島でオランダ商人と取引していたので、龍馬がコーヒーを飲んだのではないかと。文献には残っていないが、亀山社中（のち海援隊）の隊員が飲んだという逸話が残っている。

この「龍馬が愛した珈琲」は、その逸話にもとづき、幕末長崎出島でしか味わえなかった珈琲を当時のコーヒー豆の仕入れ先であるインドネシアから取り寄せ、焙煎方法を忠実に再現し、オーケーオフィスコーヒー（長崎市）が2000年から売り出したドリッパバックの本格的なレギュラーコーヒーである。



小浜食糧株式会社は、この『龍馬が愛した珈琲』を同社の従来商品である長崎銘菓「クルス」のオリジナル生地に加え、珈琲チョコレートをサンドした「クルス（珈琲）」を発売中である。

（３）龍馬伝説カレー

オランダの軍医ポンペは1857年オランダ商館（長崎・出島）へ着任し、西洋医学の普及と治療に献身的な活動をした。そのポンペは本国への報告書の中で商館員の食生活のカレー料理について記載されている。日本最初の西洋料理店「良林亭」（後の自由亭）は亀山社中の近くにあったことやそのメニューにカレー料理が記載されていることから1864年に長崎入りした龍馬は、カレーを食べたのではないかと思われる。

黄綬褒章「現代の名工」坂本洋司氏が、その良林亭のメニューなどを参考に当時のカレーの研究を重ね「龍馬伝説カレー」として再現した。隠し味にインドネシア産（ジャワ島・スマトラ島）のコーヒーやビール・チーズ等を使って特徴ある風味に仕上げたもので、肉は長崎県産豚を使用している。

（４）本格焼酎 龍馬伝

焼酎では、龍馬に関連した商品が玄海酒造（龍馬伝）、福田酒造（芋大尽、龍馬維新）、長崎大島醸造（長崎の志士）、梅ヶ枝酒造（龍馬が愛した焼酎）、杵の川酒造（長崎幕末伝）、山崎本店酒造場（龍馬伝）などで販売されている。

一方、高知、京都と連携した取組みもみられる。坂本龍馬が活躍したゆかりの地の酒造会社3社が共同で本格焼酎「龍馬伝」を新開発。土佐、長崎、京都の思いを込めてそれぞれの土地で愛され飲まれている代表的な焼酎を開発したもので、それらを3種類セットにして「龍馬伝」にした。それぞれの焼酎は原料が異なり、サブタイトルがついている。

- ◆【長崎：希望篇】長崎の麦焼酎（壱岐の華）は、400年の歴史を持つ麦焼酎。世界産地呼称の「長崎壱岐焼酎」は、伝統の常圧蒸留と、熟成による深い味わいが楽しめる焼酎に仕上がっている。
- ◆【高知：立志篇】土佐の芋焼酎（菊水酒造）は、金時芋をふんだんに使った味わい深い芋焼酎。
- ◆【京都：風雲篇】京都の米焼酎（北川本家）は、3年以上貯蔵熟成させた本格米焼酎。一部の原酒をホワイトオークの樽（洋樽）に貯蔵したものをブレンド。

各銘柄ともラベルに坂本家家紋をあしらい、パッケージは3本並べると日本地図が現れ、龍馬の手紙の一文を記してある。大河ドラマ「龍馬伝」放送期間中だけの限定商品。

2. 日用品への活用

（１）龍馬の愛用茶碗 亀山焼

亀山焼とは、江戸時代後期の長崎で作られた陶磁器で、製陶期間が約60年と短く、現存するものが少ないことから幻の焼き物と呼ばれる。文化4年（1807年）、長崎伊良林垣根山で開窯され

たが、慶応元年（1865年）3月財政難のため廃窯。同年、亀山焼工場跡地を高田家が購入。同年から2年間、坂本龍馬が率いる亀山社中の活動拠点となった。

高田家の子孫高田祐治氏が三川内焼の嘉泉製陶所に協力を依頼し、坂本龍馬も愛用していたと



いう亀山焼を「崎陽亀山焼 高田茶屋」として再興し、昨年8月から「高田茶屋」のブランド名で販売を始めた。

NHK側から当初亀山焼の登り窯についての照会があり、その後龍馬伝での使用依頼まで話が広がった。ドラマでは8月1日放送の第31話以来、丸山・引田屋のシーンを中心に、とっくりなどの酒器が使われている。

（2）坂本龍馬のブーツ復元について

ドンシューズ（長崎市浜町）は、1990年龍馬が履いたと思われる靴を再現し、長崎旅博覧会において展示した。約5年前に販売を始めたが、大河ドラマ「龍馬伝」放映に伴う龍馬ブームの到来で急激に販売数が増加し、これまでに約190足を販売。注文の約8割は県外からで、北海道、東京など全国から熱心な龍馬ファンが購入に訪れる。龍馬ブーツは生産が追いつかないほどの人気で、注文しても約1か月半待ちとのこと。



3. その他への活用

龍馬グッズ自販機

長崎市麹屋町の行政書士、西津健三氏が様々な龍馬商品を販売している自動販売機を設置。

場所は、「長崎龍馬の道」の途中、観光通りアーケードの先から中通り商店街を過ぎたあたりの駐車場（コインパーキング）。亀山社中までの徒歩圏内にある。

商品は、龍馬のストラップやキーホルダー・「龍馬が愛したクッキー」のほか「龍馬が愛した長崎県産の米」などの自動販売機もある。高知県のメーカーから直接仕入れたものと、西津氏自身が



デザインしたものがある。“龍馬が歩いた麴屋町。お龍さんと一緒だったかも・・・”をテーマにした「龍馬合格祈願・恋愛成就祈願絵馬」などの自動販売機が新設された。

観光旅行者向けに“幕末長崎古地図で巡る、亀山社中までの道順”と題した無料の手作りマップが好評の様だ。

4. 「ながさき龍馬くん」と龍馬伝ロゴ使用などについて

「ながさき龍馬くん」が商標登録され、「龍馬伝ロゴ」が作成されることにより、旅行商品やお土産、各種商品および広告媒体等で使用され、観光客の誘致、地元経済活性化が図られている。「ながさき龍馬くん」を使用するためには県観光振興推進本部への申請が必要であるが、旅行パンフレット・食品を中心に、253件が許可されている（7月末現在）。

申請書ベースでの使用許可件数（2009年4月～10年7月）

合計	335件
○広報利用	82件
各種イベント、大会広報誌、公共交通機関の時刻表、名刺台紙など	82件
○商業利用	253件
旅行パンフレット	97件
食品（お菓子・加工品・焼酎等）	74件
観光土産グッズ（ストラップ等）	20件
龍馬フェア・長崎フェア等（物産展）の広告	20件
企業HP・カタログ等	20件
日用品（陶磁器・タオル等）	11件
その他（電車広告・バスラッピング等）	11件

一方、NHK大河ドラマ「龍馬伝」のタイトルロゴと商標についても、使用に関する説明会に約500名の参加があった。従来の「連続テレビ小説」や「大河ドラマ」では200名程度の申込みであり、長崎での利用に対する関心の高さがうかがえる。

龍馬伝館などの観光施設においてここで紹介しきれなかった数多くの龍馬に関連する食品、生活雑貨、書籍等を販売し、多くの観光客がその商品を買求めている。龍馬に関する資料を展示しながらこれら商品を販売している大型商業施設もある。また、「ながさき龍馬くん」のキャラクター使用などにより商品を販売促進し、龍馬に関する料理を提供することで観光客の誘致や県民の地産地消に役立てようとしている。

良い意味での便乗も含め、龍馬ビジネスが活況を呈している。「龍馬」が長崎の地域資源の一つとして定着しつつあるといえよう。

（橋口 不二郎）